

2002年 夏 28号

LANDSCAPE

港区景観を考える会 会報

港談会だより(4~6月)

4月港談会 「埋蔵文化財調査見学」

(第78回 4/20土)

高輪二本榎(高輪一丁目):長谷工コーポレーションが超高層マンションを計画している敷地の、埋蔵文化財調査の現場見学に行ってきました。

江戸初期には光学院というお寺が立地していたが、寛文8年(1668年)、伊皿子町にあった上行寺が当地に移り、以後昭和37年に伊勢原に再び移転するまで、元禄15年(1702年)と延享2年(1745年)の2回の火災をはさみながら、3世紀以上に渡って存続していた。高輪台は南北に渡って寺院が集中して建ち並んでおり、上行寺もその一画を担っていた。

遺跡概要としては、西側斜面の台地西部に寺院のものと思われる数組の礎石列が東西に平行し、台地上には門前があったと推定され、北東部から礎石のある西部にかけて2列の石敷きが続き、寺院へと向かう道であったと思われる。それに伴うお墓も、台地北東部・南西部・低地北部の3箇所に検出されているが、墓域ごとに様相を異にしている。



また台地部全域にかけて焼土の層が堆積し、火災の記録を裏付けるものであろう。その他ゴミ穴、地下室、井戸といった遺構が確認されており、特にゴミ穴は調査区全域に渡り点在し、多くの遺物の出土をみている。

参考:上行寺跡・同門前町屋跡遺跡 港区教育委員会、(株)長谷工コーポレーション、(株)盤古堂

今回は遺跡という、街においては特殊な特性をもつ土地の見学会となりました。この計画地では、3社による居住戸数増が約1000戸にも及ぶ環境変化が起こります。これは周辺地域に与えるインパクトがことのほか大きいことは議論されるまでもありません。



どんなまちにもすでに存在している個性を見出せませんが、街路事業、区画整理事業、再開発事業などの市街地の基盤を根こそぎ変えてしまう事業によって、せっかくの町の個性が失われようとしているところが数多くみられます。それは記憶の風景を断ち切ってしまう整備手法ともいえます。人間が住み続けている場所には、地形や立地する自然環境に配慮し、宅地割りや街路のかたちが決められ、住居の配置がデザインされていたという、私達の体験や学習といったもの以外の受け継がれる核や遺伝子といった、当時の計画の理念が秘められています。

その受け継ぎはまさに私達がおこなえることであり、将来生活者としてまちづくりへ携われるもっとも有効な手段だといえます。数多くの勉強会やまち歩きを行っていますが、もう一度わたしたちができることの整理をしてみなくてはならないという意識のもてる重要な機会となりました。(関口 悟)

